

生活保護受給者に必要な家計管理支援とは何か

小野 由美子

生活保護受給者には家計管理の困難さを抱える世帯が少なくない。政府統計をみると、被保護単身世帯は住居費が一般の低所得層と比較して高く、保健医療、交通・通信、教養・娯楽等の費目では低い。路上生活と生活保護の受給経験等がある単身男性と、比較の参考対象として大学生に家計管理に関するアンケートを実施したところ、単身男性には相談できる家族が少ないことが目立った。家計簿をつけていないと回答した男子学生は84.8%と多く、受給経験等がある単身男性の14人中10人も記帳していないことから、単身男性を中心とした家計管理支援では記帳以外の方法が期待される。支援者からは家計管理の目的と方法を明確にする必要性や、借金や滞納問題との関連性についての課題が指摘された。生活保護受給者にとって必要な家計管理支援には、生活の質を向上するための家計簿記帳に限定されない低位性の認められる費目に配慮した取組みが必要である。

キーワード：家計管理支援 生活保護受給者 生活の質

1. はじめに

失業率が高水準で推移するなどの厳しい経済・雇用情勢の下、生活保護受給者は1995年を底に増加へ転じ、2012年12月には215万人、157万世帯を上回った。生活保護は、資産や能力等すべてを活用してもなお生活に困窮する者に対し、その困窮の程度に応じて必要な保護を行うことにより健康で文化的な最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長する制度である。社会保障の最後のセーフティネットである生活保護には生活扶助、教育扶助、住宅扶助、医療扶助等の8種類からなり、それぞれ日常生活を送る上で必要となる食費や住居費、治療費等について必要な限度で給付されている¹⁾。

一方で、生活保護等により最低限度の生活を保障するための収入があっても、生活の質²⁾を確保するためには生活費の使い方、つまり支出のあり方もあわせて検討することが求められる。例え

ば、生活の基礎的な支出である食費を、1ヶ月の間にならして使えるよう身につけていないことで生じる弊害は支援者からしばしば聞かれ、お金の「やりくり」(工夫して、帳尻をあわせること)の困難さをいかに支えるかが課題となっている。厚生労働省の社会保障審議会が1月25日に提出した「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会の報告書」でも、新しい生活支援体系として家計相談支援が盛り込まれているところである。筆者は、知的障害者をはじめとする「要支援消費者」(消費生活を送る上で家族や支援者の見守りが日常的に必要な消費者)を対象に、消費者問題を未然に防ぐための方法や家計管理を学習する講座を支援者らと実践しているが³⁾、関連して、生活保護受給者への家計管理支援のあり方を模索する中で得た留意事項について今回考察したい。

2. 研究の方法

生活保護受給者にとって必要な家計管理支援とは何かを検討するため、「社会保障生計調査」な

どの政府統計を参考にして被保護世帯の収入や消費支出について検討する。次に、路上生活と生活保護の受給経験等がある单身男性を対象にしたお金のやりくりに関するアンケートを実施し、その実態を探る。あわせて、大学生を対象に同様のアンケートを実施し、生活背景の違いを考慮する必要はあるが、性別や住まい方で家計管理の意識に相違があるかを考察して参考とする。最後に、路上生活経験者の支援者へのヒアリング調査を踏まえ、生活保護受給者への家計管理支援の意義と課題について検討する。

3. 結果

3-1 生活保護受給世帯の類型

2010年度における生活保護受給者の世帯類型をみると、1,405,281世帯のうち高齢者世帯が603,540(42.9%)、母子世帯は108,794(7.7%)、障害者世帯・

傷病者世帯は465,540(33.1%)、その他の世帯は227,407(16.2%)である。生活保護受給者が少なかった1995年度と2010年度の各世帯類型の該当数を比較すると、どの世帯も増加しているが、とりわけ5.46倍と顕著なのは「その他の世帯」であり、傷病者・障害者世帯の1.84倍と大きな開きがある。ここでの「その他の世帯」とは高齢者、母子、傷病者、障害者のいずれにも該当しない世帯であり、失業者の増加による影響が指摘されている。

3-2 性別、年齢階級別にみた被保護世帯

2010年度の生活保護受給者は1,878,725人であり、そのうち男性が922,092人(49.1%)、女性が956,633人(50.9%)である。单身世帯では1,029,052世帯中、男性が567,994世帯、女性が461,058世帯であり、男性が55.2%と過半数を占めており、女性との割合で最も差があるのは41～59歳で69.1%

表1 世帯類型別にみた被保護世帯数及び世帯保護率の年次推移

	1995年度		2000年度		2005年度		2010年度		増加指数※1
	数	%	数	%	数	%	数	%	
総数	600,980	100.0	750,181	100.0	1,039,570	100.0	1,405,281	100.0	234
高齢者世帯	254,292	42.3	341,196	45.5	451,962	43.5	603,540	42.9	237
母子世帯	52,373	8.7	63,126	8.4	90,531	8.7	108,794	7.7	208
傷病者世帯・障害者世帯	252,688	42.0	290,620	38.7	389,818	37.5	465,540	33.1	184
その他の世帯	41,627	6.9	55,240	7.4	107,259	10.3	227,407	16.2	546

※1 2010年度における1995年度を100とした場合の指数

※2 出所：国立社会保障・人口問題研究所が公表の生活保護制度関連公的データ「世帯類型別被保護世帯数及び世帯保護率の年次推移」。著者が5年度ごとに整理し、増加指数を算出した。

表2 单身・その他世帯別、性別、年齢階級別にみた被保護人員

	総数			单身世帯			その他世帯		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	1,878,725	922,092	956,633	1,029,052	567,994	461,058	849,673	354,098	495,575
%	100.0	49.1	50.9	100.0	55.2	44.8	100.0	41.7	58.3
0～5歳	55,932	28,641	27,291	30	15	15	55,902	28,626	27,276
%	100.0	51.2	48.8	100.0	50.0	50.0	100.0	51.2	48.8
6～19歳	230,524	117,721	112,803	1,311	662	649	229,213	117,059	112,154
%	100.0	51.1	48.9	100.0	50.5	49.5	100.0	51.1	48.9
20～40歳	201,562	74,839	126,723	63,480	40,874	22,606	138,082	33,965	104,117
%	100.0	37.1	62.9	100.0	64.4	35.6	100.0	24.6	75.4
41～59歳	433,281	242,864	190,417	263,949	182,473	81,476	169,332	60,391	108,941
%	100.0	56.1	43.9	100.0	69.1	30.9	100.0	35.7	64.3
60～69歳	430,494	250,854	179,640	318,733	200,023	118,710	111,761	50,831	60,930
%	100.0	58.3	41.7	100.0	62.8	37.2	100.0	45.5	54.5
70歳以上	526,932	207,173	319,759	381,549	143,947	237,602	145,383	63,226	82,157
%	100.0	39.3	60.7	100.0	37.7	62.3	100.0	43.5	56.5

出所：厚生労働省『被保護者全国一斉調査』（平成22年）の「第1表（4-1）被保護人員、級別・单身世帯-その他世帯・性・年齢階級別」。著者が年齢階級を少なく整理・加工した。

であり、60～69歳は62.8%、70歳以上になると37.7%と低下する。一方、女性の割合が男性に比べて最も高いのは「その他の世帯」（単身世帯以外の世帯）の20～40歳で75.4%となっており、その主な理由はここに母子世帯が含まれるからだと推測される。

3-3 生活保護基準の算定

生活保護の種類は、生活扶助、教育扶助、住宅扶助、医療扶助、介護扶助、出産扶助、生業扶助及び葬祭扶助の8種類あり、受給者の必要に応じて単給、あるいは各扶助を積み上げる形で併給される。地域による物価水準を考慮した級地ごとに各扶助額は定められ、例えば1級地-1には東京都の大半の市区などの大都市が含まれている。表

3は『厚生労働白書』に例示された世帯類型別生活扶助基準であり、例えば「高齢単身世帯68歳女」⁴⁾では1級地-1から3級地-2について80,820円から62,640円となっている。医療扶助と介護扶助は現金による給付ではなくサービスなどの「現物給付」という形をとることから、生活保護受給世帯における家計管理の範囲としては、生活扶助に加えて別に支給される住宅扶助等との合計が目安となるだろう。

3-4 単身の生活保護世帯の実収入

次に、生活保護を受給している単身世帯の家計をみると、全体の平均では実収入が118,134円で、内訳は勤労収入10,836円(9.2%)、生活保護給付87,744円(74.3%)、他の社会保障給付16,818

表3 生活保護費の決め方、世帯類型別生活扶助基準

(最低生活費の計算)



・このほか、出産、葬祭等がある場合は、その基準額が加えられる。

(収入充当額の計算)

平均月額収入－(必要経費の実費＋各種控除)＝収入充当額

(扶助額の計算)

最低生活費－収入充当額＝扶助額

引用：『厚生労働白書』平成24年版205ページ。太枠は著者が追記。

表4 実収入：単身の生活保護世帯

		実 数										構 成 割 合				
		実 収 入	就 労 収 入	勤 め 先 入	内 職 収 入	生活保護給付金	他の社会保障給付金	社会保険給付金	その他社会保障給付金	その他	実 収 入	就 労 収 入	生活保護給付金	他の社会保障給付金	その 他	
																円
総	数	118,134	10,836	10,563	273	87,744	16,818	16,088	730	2,736	100.0	9.2	74.3	14.2	2.3	
級 地	1 級 地 - 1	131,150	6,561	6,415	146	101,645	19,497	18,509	988	3,447	100.0	5.0	77.5	14.9	2.6	
	1 級 地 - 2	113,326	9,558	9,425	132	87,629	14,060	13,087	973	2,079	100.0	8.4	77.3	12.4	1.8	
	2 級 地 - 1	109,053	18,396	18,205	191	75,567	13,212	12,938	274	1,878	100.0	16.9	69.3	12.1	1.7	
	2 級 地 - 2	115,842	23,869	23,284	585	77,406	12,791	11,583	1,208	1,775	100.0	20.6	66.8	11.0	1.5	
	3 級 地 - 1	102,095	15,726	15,352	374	62,162	22,280	21,974	306	1,927	100.0	15.4	60.9	21.8	1.9	
3 級 地 - 2	79,271	9,902	8,538	1,365	59,941	6,944	6,746	198	2,484	100.0	12.5	75.6	8.8	3.1		
世帯類型	高 齢 者 世 帯	115,835	4,198	4,097	101	87,688	21,167	20,407	760	2,782	100.0	3.6	75.7	18.3	2.4	
	そ の 他 の 世 帯	120,714	18,282	17,817	465	87,808	11,940	11,243	697	2,685	100.0	15.1	72.7	9.9	2.2	

注意点
 就労収入＝勤め先収入＋内職収入
 他の社会保障給付金＝社会保険給付金＋その他社会保障給付金
 その他＝仕送り金＋特別収入

出所：厚生労働省『社会保障生計調査』（平成22年）。著者が太枠を追記。

円(14.2%)、その他2,736円(2.3%)となっている。実収入は3/4程度は生活保護費が占め、年金などが15%、勤労収入10%、仕送りなどが2%という内訳になる。

ちなみに、「他の社会保障給付」はその他の世帯が9.9%、高齢者世帯が18.3%と後者が割合が高い。これは補正性の原則といわれ、生活保護は年金などの他の社会保障制度を活用しても最低生活費に満たない分を補足するという形で運用されている。

3-5 単身の生活保護世帯の消費支出

消費支出の平均は107,618円であり、その内訳は食料31,535円(29.3%)、住居33,732円(31.3%)、光熱・水道9,190円(8.5%)、家具・家事用品4,221円(3.9%)、被服及び履物2,790円(2.6%)、保健医療2,156円(2.0%)、交通・通信7,319円(6.8%)、教育0円(0.0%)、教養娯楽6,057円(5.6%)、その他10,619円(9.9%)である。食料は、1日1,000円程度が目安といったところだろうか。

単身世帯でも被保護世帯、年間収入第I五分位階級の世帯(以下、低所得世帯)、一般世帯により消費支出で違いがみられるのだろうか。総務省『家計調査年報』(平成22年)のデータと比較すると、住居費は被保護世帯の方が高い(被保護世帯33,732円、低所得世帯16,732円、一般世帯10,976円)。『社会保障生計調査』の費目の内訳が公表されておらず詳細は不明だが、被保護世帯の持家率は低く、家賃による支払いの多さが一因と考えられる。ちなみに『家計調査年報』における年間収入第I五分位階級で家賃・地代を支払っている世帯の割合は38.5%と低く、平均年齢は64.9歳である。

一方で、「保健医療」「交通・通信」「教養・娯楽」「その他」は被保護単身世帯の方が低い。生活保護の医療扶助により通院や投薬等による自己負担のないことが背景にあるだろう。「交通・通信」「教養・娯楽」費用の低位性からは限定的な社会生活がうかがえる。「その他」については『家計調査年報』に準ずるとすれば、その内訳に理美容サー

表5 消費支出：単身の生活保護世帯

		実 数										
		消費支出	食 料	住 居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教 育	教養娯楽	そ の 他
		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
総	数	107,618	31,535	33,732	9,190	4,221	2,790	2,156	7,319	0	6,057	10,619
級	1 級 地 - 1	119,870	34,706	44,016	7,715	4,193	2,730	2,500	6,724	0	6,555	10,731
	1 級 地 - 2	104,696	30,416	28,079	10,710	4,128	2,998	1,708	8,599	0	6,128	11,931
	2 級 地 - 1	97,251	29,207	24,646	9,641	4,139	3,291	1,847	8,563	0	5,031	10,885
	2 級 地 - 2	104,068	30,572	27,558	11,780	4,532	2,978	3,196	11,435	0	4,663	7,354
	3 級 地 - 1	91,024	25,545	22,636	10,847	4,552	2,217	1,763	6,144	0	6,709	10,610
	3 級 地 - 2	76,431	25,083	11,041	13,116	4,251	2,101	1,306	5,908	0	5,123	8,504
世帯類型	高齢者世帯	106,276	31,034	36,153	8,895	4,111	2,481	2,375	5,764	0	5,438	10,024
	その他世帯	109,124	32,097	31,016	9,520	4,343	3,137	1,911	9,063	0	6,751	11,286

出所：厚生労働省『社会保障生計調査』(平成22年)。著者が太枠を追記。

表6 単身世帯の消費支出の比較

	消費支出	食 料	住 居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教 育	教養娯楽	そ の 他
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
① 被保護単身世帯	107,618	31,535	33,732	9,190	4,221	2,790	2,156	7,319	0	6,057	10,619
② 年間収入第I五分位階級(単身)	98,960	25,609	16,253	9,979	3,164	2,820	4,378	9,233	0	9,069	18,456
③ 一般単身世帯	162,009	37,364	20,976	10,737	4,366	6,449	6,238	20,299	316	20,956	34,308

出所

①厚生労働省『社会保障生計調査』(平成22年度)

②総務省『家計調査年報』(平成22年)「第4表 年間収入五分位階級別1世帯当たり1か月間の収入と支出(単身世帯)」

※第I五分位は年収が148万円以下

表7 「お金のやりくり」アンケート：路上生活及び生活保護受給経験等のある单身男性14人

No.	①お金の相談をする人はいいますか				②お金のやりくりで困ることはありますか※				③家計簿をつけていますか		④家計簿などをつけてみたいですか※					⑤基本属性					備考				
	有無	種類①	種類②		有無	種類①	種類②	種類③	種類④	現在	経験	記録希望	理由①	理由②	理由③	理由④	代替案	性別	年代	支援歴(年)		受給状況	受給歴(年)	住まい	
1	いる	友人	なし							記録せず	なし	あり	3					男性	60代	4	受給中	4	アパート		
2	いる	友人	役場	なし						記録	あり							男性	~40代	2	受給中	2	アパート		
3	いる	支援者	なし							記録せず	?	なし						4	男性	60代	9	受給中	9	アパート	食事代を1ヶ月まとめて八百屋へ渡しており、毎日使った費用を八百屋が記入して見せてくれる。
4	いる	家族等	あり	3						記録せず	なし	なし					3	男性	50代	3.5	なし	0	アパート	(保護歴なし)	
5	いる	支援者	なし							記録せず	あり	あり	2	4				男性	~40代	8	過去に		アパート		
6	なし		あり	1	2	4				記録せず	なし	なし						3	男性	70代	7	受給中	6	アパート	
7	なし		あり	1						記録せず	なし	なし						男性	50代	9	受給中		アパート		
8	なし	支援者	あり	2	3	4	5	6	時々	あり	あり	3						男性	70代	4	過去に		アパート	2回破産した。炊き出しで食いつないでいる。年金が支給されたら保護費を打ち切られた。なぜ年金と保護費の両方をもらえないのか。	
9	なし	役場	なし							記録せず	?	なし						3	男性	60代	3	受給中	3	アパート	
10	なし		あり	3						記録せず	?	なし						1	男性	~40代	6	受給中	5	アパート	
11	なし	支援者	役場	あり	2	3	5			記録	あり	1	2	3	4			男性	60代	5.5	受給中	7	その他	海外旅行に行っていたと思うが…。	
12	いる	支援者	あり	3						記録せず	なし	なし	3					男性	70代		受給中	10	アパート		
13	なし		あり	2						記録								男性	~40代	10	受給中	8	アパート		
14	なし		あり	2						記録せず	あり	あり	1	2	4			男性	70代	3	受給中	3	アパート		

※②お金のやりくりで困ること

- 生活保護費が支給される前にお金が足りなくなる
- 貯金したくてもできない
- 趣味など、好きなことにお金を使えない
- 借金問題が未解決
- その他

※④家計簿をつけない理由

- 生活保護費の支給前にも余裕がほしいから
- 貯金したいから
- 趣味など、好きなことにお金を使いたいから
- 目標があるから
- その他

※④家計簿の代替案

- レシートを集める(集計は別の人がやってもらう)
- 家賃などの支払いは他の人に任せ、残ったお金を自由に使いたい
- 封筒を使った管理など、家計簿やこづかい帳への記入以外の方法
- その他

●対象者の概要●

路上生活及び生活保護受給経験のある单身男性 14人

【年代】	40歳以下 :4人	【住まい】	平均 5.7年
	50歳代 :2人	アパート :13人	
	60歳代 :2人	アパート以外 :1人	【生活保護受給状況】
	70歳以上 :4人		1. 生活保護受給中 :11人 (平均 5.7年)
			2. 生活保護を受けていないが、以前、受けていた :2人
			3. 生活保護は受けたことがない :1人

●回答状況●

①お金について困ったときに相談する人はいいますか

- はい 6人
- いいえ 8人

(「はい」と回答した6人について) 相談相手は誰ですか(複数回答)

- 支援者 5人
- 家族や親戚 1人
- 友人・知人 2人
- 役場の人 3人
- その他 0人

②お金のやりくりで困ることはありますか

- はい 9人
- いいえ 5人

(「はい」と回答した9人について) 何でお困りですか(複数回答)

- 生活保護費が支給される前にお金が足りなくなる 2人
- 貯金したくてもできない 5人
- 趣味など、好きなことにお金を使えない 5人
- 借金問題が未解決 2人
- その他 2人

③家計簿やこづかい帳をつけていますか

- つけている 3人
- ときどきつけている 1人
- つけていない 10人

(「つけていない」と回答した10人について) これまではいかがでしたか(複数回答)

- 以前はつけていたが、今はつけていない 2人
- これまでに金つけたことがない 5人

④家計簿やこづかい帳をつけてみたいですか

- はい 6人
- いいえ 7人

(「はい」と回答した6人について) 家計簿をつけたい理由は何か(複数回答)

- 生活保護費の支給前にも余裕がほしいから 2人
- 貯金したいから 2人
- 趣味など、好きなことにお金を使いたいから 4人
- 目標があるから 3人
- その他 0人

(「いいえ」と回答した7人について) どんな方法なら代わりにやってみたいですか(複数回答)

- レシートを集める(集計は別の人がやってもらう) 1人
- 家賃などの支払いは他の人に任せ、残ったお金を自由に使いたい 0人
- 封筒を使った管理など、家計簿やこづかい帳への記入以外の方法 3人
- その他 1人

ビスやたばこ等が含まれるが、第Ⅰ五分位階級の平均が18,456円なのに対し、被保護単身世帯では10,619円と低いことが特徴的である。

3-6 「お金のやりくり」アンケート：生活保護受給等の経験がある单身男性

次に、家計管理支援のニーズを探るため、路上生活や生活保護受給経験等のある单身男性の14人にアンケート調査を実施した。協力頂いたのは愛知県名古屋市内の野宿者・ホームレスの支援団体O会であり、アパート生活に移行した人を食事会や交流会を開催するなどして支援を行っている。2012年3月4日に開催された食事会の参加者が今回の対象者であり、年代は40歳代以下が4人、50歳代が2人、60歳代が4人、70歳代以上が4人である。生活保護受給中が11人、現在は受けていないが、以前に受けていた人が2人、受給経験がない人が1人である。住まいは1人を除く13人がアパートで生活している。表7（「お金のやりくり」アンケート：路上生活及び生活保護受給経験等のある单身男性14人）は、対象者に1から14までの番号を割り当て、それぞれの回答を一覧にまとめたものである。以下、その内容を紹介する。

3-6-1 お金について困ったときの相談相手

お金に困ったときに相談できる人の有無を質問したところ、「相談できる人がいる」が6人、「相談できる人がいない」が8人だった。相談できる人がいる6人について、相談相手を複数回答で尋ねたところ、「支援者」5人、「役場の人」3人、「友人・知人」2人、「家族や親戚」1人であった。

3-6-2 お金のやりくりで困ること

お金のやりくりで困った経験がある人は9人、困ったことのない人は5人だった。困った経験のある9人中、過半数の5人が「貯金したくてもできない」そして「趣味など、好きなことにお金が使えない」と回答した。

3-6-3 家計簿やこづかい帳の記帳

家計簿やこづかい帳をつけているかを尋ねると、「つけていない」人が10人と一番多く、「つけ

ている」が3人、「ときどきつけている」が1人という結果だった。一方、家計簿をつけてみたいと興味のある人は全体で6人おり、「趣味など好きなことにお金を使ってみたい」4人、「目標がある」3人と、その理由を複数回答で選んでいた。

次に、家計簿やこづかいをつけていない7人のうち3人が「封筒を使った管理など、家計簿やこづかい帳への記入以外の方法」ならやってみたいと答えた。自由記述欄で興味深かった回答に、家計簿をつける代わりにお金のやりくりとして八百屋を活用している人の記述があった。補足して実施した支援者からのヒアリングによると、社会生活を営むことに困難が伴う精神障害のある人とのことで、食事代を1ヶ月まとめて八百屋に渡して、毎回使った金額はその八百屋がノートに記入して見せてもらうようにしていた。私たちの生活に必要な食費をまず確保するという意味では大変現実的な対応であり、家計簿やこづかい帳をつけなくても支援者に相談するなどして、自分なりの「お金のやりくり術」が定着している好例といえよう。

3-7 「お金のやりくり」アンケート：大学生

路上生活や生活保護受給経験等のある单身男性とは生活背景が異なるものの、一人暮らしなどの住まい方や性別による検討が可能と考えられることから、2012年4月に大学生に対する類似のアンケートを実施した。対象となったのは2つの大学に通う93人で、男性33人、女性60人であり、各大学別の特徴は下記の通りである。

【A大学】 家政学部3年生。科目「消費者政策と法」履修生。
21人全員が女性。家族と同居している学生が19人、一人暮らしが2人。

【B大学】 教育学部2～4年生。科目「消費生活論」履修生。
男性33人（45.8%）、女性39人（54.2%）、計72人（100.0%）。
62.5%の学生が一人暮らしをしており、そのうち69.7%を男性が占める。

3-7-1 お金について困ったときの相談相手

お金のやりくりで困ったときに相談相手がいる人は81人（89.0%）、いない人は10人（11.0%）で、

大学、性別、学年、住まい方別とも違いはなかった。相談する人がいる場合の相手を見ると（複数回答）、家族や親戚78人（95.1%）、友人・知人23人（28.0%）、ファイナンシャルプランナーなどの専門家1人（1.2%）という結果であった。

3-7-2 お金のやりくりで困ること

お金のやりくりで困ることがあるのは50人（54.3%）で、大学、性別、住まい方別では大きな違いはなく、学年では2年生に困った人が過半数を超える相違がみられたが、 χ^2 検定による差

は認められなかった。困っている人にその内容を尋ねたところ（複数回答）、「貯金したくてもできない」32人（61.5%）が一番多く、「収入がある前にお金が足りなくなる」24人（46.2%）、「趣味など、好きなことにお金が使えない」23人（44.2%）と続き、「借金問題が未解決」が1人（1.9%）いた。

3-7-3 家計簿やこづかい帳の記帳

家計簿やこづかい帳をつけているか尋ねたところ、「つけている」12人（12.9%）、「ときどきつけている」21人（22.6%）、「つけていない」60

表8-1 「お金のやりくり」アンケート：学生93人 男性 33人（35.5%） 女性 60人（64.5%）

		学年			合計
		2年生	3年生	4年生	
A大学	女性	N 0	21	0	21
	%	0.0	100.0	0.0	100.0
B大学	男性	N 12	9	12	33
		% 36.4	27.3	36.4	100.0
	女性	N 13	24	2	39
		% 33.3	61.5	5.1	100.0
	計	N 25	33	14	72
		% 34.7	45.8	19.4	100.0
合計	N 25	54	14	93	
	% 26.9	58.1	15.1	100.0	

		住まい方			合計
		家族と同居	一人暮らし	その他	
A大学	女性	N 19	2	0	21
	%	90.5	9.5	0.0	100.0
B大学	男性	N 8	23	2	33
		% 24.2	69.7	6.1	100.0
	女性	N 15	22	2	39
		% 38.5	56.4	5.1	100.0
	計	N 23	45	4	72
		% 31.9	62.5	5.6	100.0
合計	N 42	47	4	93	
	% 45.2	50.5	4.3	100.0	

表8-2 ①お金のやりくりで困ったときに相談する人はいますか

【大学別】		はい	いいえ	合計
A大学	N	19	2	21
	%	90.5	9.5	100.0
B大学	N	62	8	70
	%	88.6	11.4	100.0
合計	N	81	10	91
	%	89.0	11.0	100.0

【性別】		はい	いいえ	合計
男性	N	27	5	32
	%	84.4	15.6	100.0
女性	N	54	5	59
	%	91.5	8.5	100.0
合計	N	81	10	91
	%	89.0	11.0	100.0

【学年別】		はい	いいえ	合計
2年生	N	23	2	25
	%	92.0	8.0	100.0
3年生	N	48	5	53
	%	90.6	9.4	100.0
4年生	N	10	3	13
	%	76.9	23.1	100.0
合計	N	81	10	91
	%	89.0	11.0	100.0

【住まい方別】		はい	いいえ	合計
家族と同居	N	15	11	26
	%	57.7	42.3	100.0
一人暮らし	N	11	20	31
	%	35.5	64.5	100.0
その他	N	3	0	3.0
	%	100.0	0.0	100.0
合計	N	29	31	60
	%	48.3	51.7	100.0

①(「はい」と回答した人について)相談相手は誰ですか(複数回答)

【大学別】		家族や親戚	友人・知人	FP等
A大学 19人	N	17	5	1
	%	89.5	26.3	5.3
B大学 63人	N	61	18	0
	%	96.8	28.6	0.0
合計 82人	N	78	23	1
	%	95.1	28.0	1.2

【性別】		家族や親戚	友人・知人	FP等
男性 28人	N	28	8	0
	%	100.0	28.6	0.0
女性 54人	N	50	15	1
	%	92.6	27.8	1.9
合計 82人	N	78	23	1
	%	95.1	28.0	1.2

【学年別】		家族や親戚	友人・知人	FP等
2年生 23人	N	22	3	0
	%	95.7	13.0	0.0
3年生 48人	N	45	16	1
	%	93.8	33.3	2.1
4年生 11人	N	11	4	0
	%	100.0	36.4	0.0
合計 82人	N	78	23	1
	%	95.1	28.0	1.2

【住まい方別】		家族や親戚	友人・知人	FP等
家族と同居 38人	N	35	9	1
	%	92.1	23.7	2.6
一人暮らし 42人	N	41	14	0
	%	97.6	33.3	0.0
その他 2人	N	2	0	0
	%	100.0	0.0	0.0
合計 82人	N	78	23	1
	%	95.1	28.0	1.2

表8-3 ②お金のやりくりで困ることはありますか

【大学別】				【性別】					
	はい	いいえ	合計		はい	いいえ	合計		
A大学	N	13	8	21	男性	N	17	16	33
	%	61.9	38.1	100.0		%	51.5	48.5	100.0
B大学	N	37	34	71	女性	N	33	26	59
	%	52.1	47.9	100.0		%	55.9	44.1	100.0
合計	N	50	42	92	合計	N	50	42	92
	%	54.3	45.7	100.0		%	54.3	45.7	100.0

【学年別】				【住まい別】					
	はい	いいえ	合計		はい	いいえ	合計		
2年生	N	10	15	25	家族と同居	N	21	21	42
	%	40.0	60.0	100.0		%	50.0	50.0	100.0
3年生	N	32	21	53	一人暮らし	N	28	19	47
	%	60.4	39.6	100.0		%	59.6	40.4	100.0
4年生	N	8	6	14	その他	N	1	2	3
	%	57.1	42.9	100.0		%	33.3	66.7	100.0
合計	N	50	42	92	合計	N	50	42	92
	%	54.3	45.7	100.0		%	54.3	45.7	100.0

②「はい」と回答した人について、何でお困りですか(複数回答)

【大学別】						【性別】							
	収入前の不足	貯金できない	好きに使えない	借金問題	その他		収入前の不足	貯金できない	好きに使えない	借金問題	その他		
A大学	N	7	8	6	0	2	男性	N	6	9	9	1	0
	%	53.8	61.5	46.2	0.0	15.4		18人	%	33.3	50.0	50.0	5.6
B大学	N	17	24	17	1	0	女性	N	18	23	14	0	2
	%	43.6	61.5	43.6	2.6	0.0		34人	%	52.9	67.6	41.2	0.0
合計	N	24	32	23	1	2	合計	N	24	32	23	1	2
	%	46.2	61.5	44.2	1.9	3.8		52人	%	46.2	61.5	44.2	1.9

【学年別】						【住まい別】							
	収入前の不足	貯金できない	好きに使えない	借金問題	その他		収入前の不足	貯金できない	好きに使えない	借金問題	その他		
2年生	N	2	6	5	0	0	家族と同居	N	10	14	8	0	2
	%	20.0	60.0	50.0	0.0	0.0		22人	%	45.5	63.6	36.4	0.0
3年生	N	17	23	14	1	2	一人暮らし	N	13	16	14	1	0
	%	50.0	67.6	41.2	2.9	5.9		28人	%	46.4	57.1	50.0	3.6
4年生	N	5	3	4	0	0	その他	N	1	2	1	0	0
	%	62.5	37.5	50.0	0.0	0.0		2人	%	50.0	100.0	50.0	0.0
合計	N	24	32	23	1	2	合計	N	24	32	23	1	2
	%	46.2	61.5	44.2	1.9	3.8		52人	%	46.2	61.5	44.2	1.9

表8-4 ③家計簿やこづかい帳をつけていますか

【大学別】					【大学別】						
	はい	ときどき	いいえ	合計		はい	ときどき	いいえ	合計		
A大学	N	2	8	11	21	男性	N	4	1	28	33
	%	9.5	38.1	52.4	100.0		%	12.1	3.0	84.8	100.0
B大学	N	10	13	49	72	女性	N	8	20	32	60
	%	13.9	18.1	68.1	100.0		%	13.3	33.3	53.3	100.0
合計	N	12	21	60	93	合計	N	12	21	60	93
	%	12.9	22.6	64.5	100.0		%	12.9	22.6	64.5	100.0

【学年別】					【住まい別】						
	はい	ときどき	いいえ	合計		はい	ときどき	いいえ	合計		
2年生	N	7	6	12	25	家族と同居	N	4	12	26	42
	%	28.0	24.0	48.0	100.0		%	9.5	28.6	61.9	100.0
3年生	N	4	14	36	54	一人暮らし	N	8	8	31	47
	%	7.4	25.9	66.7	100.0		%	17.0	17.0	66.0	100.0
4年生	N	1	1	12	14	その他	N	0	1	3	4
	%	7.1	7.1	85.7	100.0		%	0.0	25.0	75.0	100.0
合計	N	12	21	60	93	合計	N	12	21	60	93
	%	12.9	22.6	64.5	100.0		%	12.9	22.6	64.5	100.0

③「いいえ」と回答した人について、これまではいかがでしたか(複数回答)

【大学別】				【性別】					
	以前つけていた	全くつけたことない	その他		以前つけていた	全くつけたことない	その他		
A大学	N	6	5	11	男性	N	11	17	28
	%	54.5	45.5	100.0		28人	%	39.3	60.7
B大学	N	23	26	49	女性	N	18	14	32
	%	46.9	53.1	100.0		32人	%	56.3	43.8
合計	N	29	31	60	合計	N	29	31	60
	%	48.3	51.7	100.0		60人	%	48.3	51.7

【学年別】				【住まい別】					
	以前つけていた	全くつけたことない	その他		以前つけていた	全くつけたことない	その他		
2年生	N	8	8	12	家族と同居	N	15	11	26
	%	66.7	66.7	100.0		26人	%	57.7	42.3
3年生	N	18	18	36	一人暮らし	N	11	20	31
	%	50.0	50.0	100.0		31人	%	35.5	64.5
4年生	N	7	5	12	その他	N	3	0	3
	%	58.3	41.7	100.0		3人	%	100.0	0.0
合計	N	29	31	60	合計	N	29	31	60
	%	48.3	51.7	100.0		60人	%	48.3	51.7

表8-5 ④家計簿やこづかい帳をつける利点はあると考えますか

【大学別】		はい	いいえ	合計
A大学	N	21	0	21
	%	100.0	0.0	100.0
B大学	N	64	7	71
	%	90.1	9.9	100.0
合計	N	85	7	92
	%	92.4	7.6	100.0

【性別】		はい	いいえ	合計
男性	N	29	4	33
	%	87.9	12.1	100.0
女性	N	56	3	59
	%	94.9	5.1	100.0
合計	N	85	7	92
	%	92.4	7.6	100.0

【学年別】		はい	いいえ	合計
2年生	N	23	2	25
	%	92.0	8.0	100.0
3年生	N	48	5	53
	%	90.6	9.4	100.0
4年生	N	14	0	14
	%	100.0	0.0	100.0
合計	N	85	7	92
	%	92.4	7.6	100.0

【住まい方別】		はい	いいえ	合計
家族と同居	N	39	3	42
	%	92.9	7.1	100.0
一人暮らし	N	42	4	46
	%	91.3	8.7	100.0
その他	N	4	0	4.0
	%	100.0	0.0	100.0
合計	N	85	7	92
	%	92.4	7.6	100.0

④(「はい」と回答した人について)その理由は何ですか(複数回答)

【大学別】		収入前の 余裕	貯金 できる	好きに 使える	目標が もてる	その他
A大学 21人	N	10	9	5	7	10
	%	47.6	42.9	23.8	33.3	47.6
B大学 64人	N	17	20	11	37	21
	%	26.6	31.3	17.2	57.8	32.8
合計 85人	N	27	29	16	44	31
	%	31.8	34.1	18.8	51.8	36.5

【性別】		収入前の 余裕	貯金 できる	好きに 使える	目標が もてる	その他
男性 29人	N	7	8	3	19	9
	%	24.1	27.6	10.3	65.5	31.0
女性 56人	N	20	21	13	25	22
	%	35.7	37.5	23.2	44.6	39.3
合計 85人	N	27	29	16	44	31
	%	31.8	34.1	18.8	51.8	36.5

【学年別】		収入前の 余裕	貯金 できる	好きに 使える	目標が もてる	その他
2年生 23人	N	6	8	4	15	6
	%	26.1	34.8	17.4	65.2	26.1
3年生 48人	N	19	18	10	19	21
	%	39.6	37.5	20.8	39.6	43.8
4年生 14人	N	2	3	2	10	4
	%	14.3	21.4	14.3	71.4	28.6
合計 85人	N	27	29	16	44	31
	%	31.8	34.1	18.8	51.8	36.5

【住まい方別】		収入前の 余裕	貯金 できる	好きに 使える	目標が もてる	その他
家族と同居 39人	N	14	16	9	16	15
	%	35.9	41.0	23.1	41.0	38.5
一人暮らし 42人	N	13	11	6	27	14
	%	31.0	26.2	14.3	64.3	33.3
その他 4人	N	0	2	1	1	2
	%	0.0	50.0	25.0	25.0	50.0
合計 85人	N	27	29	16	44	31
	%	31.8	34.1	18.8	51.8	36.5

④(「いいえ」と回答した人について)どんな方法なら代わりにやってみたいですか(複数回答)

【大学別】		レシート 集め	こづかいの 範囲で	封筒管理	その他
A大学 7人	N	0	2	4	1
	%	0.0	28.6	57.1	14.3
B大学 0人	N	-	-	-	-
	%	-	-	-	-
合計 7人	N	0	2	4	1
	%	0.0	28.6	57.1	14.3

【性別】		レシート 集め	こづかいの 範囲で	封筒管理	その他
男性 4人	N	0	2	2	0
	%	0.0	50.0	50.0	0.0
女性 3人	N	0	0	2	0
	%	0.0	0.0	66.7	0.0
合計 7人	N	0	2	4	1
	%	0.0	28.6	57.1	14.3

【学年別】		レシート 集め	こづかいの 範囲で	封筒管理	その他
2年生 2人	N	0	1	1	0
	%	0.0	50.0	50.0	0.0
3年生 5人	N	0	1	3	1
	%	0.0	20.0	60.0	20.0
4年生 0人	N	-	-	-	-
	%	-	-	-	-
合計 7人	N	0	2	4	1
	%	0.0	28.6	57.1	14.3

【住まい方別】		レシート 集め	こづかいの 範囲で	封筒管理	その他
家族と同居 3人	N	0	1	2	0
	%	0.0	33.3	66.7	0.0
一人暮らし 4人	N	0	1	2	1
	%	0.0	25.0	50.0	25.0
その他 0人	N	-	-	-	-
	%	-	-	-	-
合計 7人	N	0	2	4	1
	%	0.0	28.6	57.1	14.3

人(64.5%)だった。大学、学年、住まい方別による差は認められなかったが、性別では女性の方が有意に記帳をしていた($\chi^2=11.960$, $df=2$, $p<0.01$)。女子大学生を対象にした色川(2008)から、新たな生活を迎えて相対的に時間が経過していない低学年や、一人暮らしをしている学生に記帳している人が多いと予想していたが、今回の調査でははっきりとした違いは見受けられなかった。本調査では、男性に一人暮らしが多く、その男性は女性に比べて記帳していなかったことも影響していると考えられる。

記帳したことがない人に、過去に記帳経験がないか聞いたところ、「以前はつけていたが、今はつけていない」29人(48.3%)、「これまでに全くつけたことがない」31人(51.7%)という結果であり、この傾向は大学、性別、学年、住まい方による違いはなかった。

最後に、記帳するメリットの有無について全員に尋ねたところ、「はい(ある)」との回答が85人と92.4%を占め、その理由を「目標がもてるから」と44人の過半数が回答した。一方で、記帳の利点を感じない7人については、そのうち4人が「封

筒を使った管理など、家計簿やこづかい帳への記入以外の方法」を代替案として選択した。若年単身家計に関する先行研究（家計経済研究所2012）でも、8割の人が貯蓄目的をもっていても必ずしも計画的な家計管理が行われていなかった。今回の学生アンケートでも同様に、記帳の重要性は認めながらも、行動に結びついていない傾向がみられた。

3-7-4 生活保護受給等の経験がある単身男性との関わりで

生活保護受給等の経験がある単身男性と学生については生活背景の違いや調査対象者数の制約、とりわけ当事者の人数の少なさから単純な比較はできないが、お金のやりくりで困ったときの相談相手として家族が9割以上を占める学生に対し、被保護単身男性は支援者への相談が過半数と最も多いのが印象的であった。やりくりで困った経験も、当然のことながら被保護単身男性の方が多く14人中9人いるのに対し、学生は54.3%に留まっている。家計簿やこづかい帳を記帳していない学生は64.5%、とりわけ男子学生では84.8%に上るが、被保護単身男性も14人中10人が該当した。一方で、学生の92.4%は記帳の意義を感じており、目標が立てられるからと考える学生が男性や4年生に比較的多い。記帳してみたいと回答した6人の被保護単身男性をみると「趣味など、好きなことにお金をつかいたいから」4人、「目標があるから」3人と、その理由を回答している（複数回答）。記帳を希望しない7人についても、3人は「封筒を使った管理など、家計簿やこづかい帳への記入以外の方法」を代替案として選択している。このことから男性の方が家計簿等の記帳が習慣として馴染みにくいものの、目標があると記帳の意義は高まり、また記帳を希望しなくても代替手段の提案は一定の効果期待できることがうかがえる。生活保護受給等の経験がある単身男性の家計管理支援の場面でも参考にできる視点だろう。

3-8 支援者インタビューから：家計管理支援のあり方に関しての要望

前述の路上生活者の支援団体O会で活動する支

援者に、家計管理に関わる生活支援について意見を聴取した。その内容と考察は下記の通りである。

3-8-1 家計管理の目的、方法

お金のやりくりで役立つ家計簿やこづかい帳による家計管理術の紹介をしてほしい。子細な費目を用いらずに、場合によっては封筒管理等の代替方法を提案することも方法ではないか。家計簿をつける目的やメリット、留意点をあわせて提示してほしい：

例えば家計簿をつける利点としては「収支の流れが把握できることで保護費を受け取る直前でも普段と変わらない食事ができる」「趣味や好きなものに、罪悪感を抱くことなくお金を使うことができる」「お金の困ったことが起きてもその理由を伝える説明材料ができる」「予算をもとにお金を使うことが自信につながり、お金の『使われている』立場から、自分がお金を使う立場に変わることで、心の豊かさが実感できる」といった情報提供をした上で、そのための有効なツールとしての家計簿、あるいはそれが難しい場合には封筒管理術などの提案が効果的である。一定の期間で集計をし、実態にあわせて予算を立て直すといった一連のサイクルを支援することで、当事者が家計管理を継続する可能性が一層高まるだろう。

3-8-2 生活保護制度や年金、健康保険等との関連

生活保護を受けていても急な出費や将来に備えて貯金することは許されるのか、生活保護費は毎月使い切るべきなのか、どのくらいの貯金があると収入認定されるのかについて、生活保護の運用状況を踏まえた助言が求められる。関連して、年金やその他の社会保障費による収入の管理方法も当事者にとって大きな関心事である：

食費を極端に削ってまで貯金をすることは、健康を害するなどの恐れがあること、生活保護費は最低生活費を保障するための支給で、貯金までを想定した余裕のある水準ではないことを確認する必要があるだろう。保護費を毎月使い切るべきかという問いに対しては、保有の認められない物品購入のために貯金する場合を除いたとしても、不

時の備えや、次に保護費を受け取るまでに均して使うための多少の余裕は、人間らしい自然な経済状態であるといえる。保護費のやりくりで生じた貯金は収入認定されないが、貯金について説明を求められた場合は、その目的をきちんと説明すればよく、家計簿をつけている場合はそれを証拠資料として提示することを助言してもよいだろう。年金は全額収入認定されること、生活保護は毎月支給されるのに対し、年金は隔月の支払いなので取り扱いに工夫が必要であり、その点を留意した支援が求められる。

3-8-3 借金や滞納問題との関連

借金問題の解決、生活保護利用前に滞納していた住民税や国民健康保険料の取り扱い、生活福祉資金貸付制度といった公的な低利融資制度の紹介とその留意点を示してほしい：

生活保護の申請段階では借金の法的解決も並行させることが望ましく、任意整理、特定調停、個人再生、自己破産について説明される機会を設ける必要がある。貸金業者からの借入は5年で時効成立するものの、時効の援用通知を相手側へ送る手続きが必要だったり、時効成立までに少額でも返済をしたり、返済する意思表示をしたりすることで時効は停止あるいは中断されることにも留意する。社会保険料や税金の滞納については、生活保護受給証明書を社会福祉事務所に発行してもらい、それを該当する役所の窓口へ提出で執行処分が停止されるので、将来、勤労収入が増えて生活保護を受けずに生活ができるようになったら返済するなどの助言が可能である。

3-8-4 耐久消費財の購入、その他

生活保護を受けている場合、携帯電話やエアコンを所有する際の留意点が気になるところである。その他、親族の葬儀に出席するための交通費の取り扱いに言及してほしい：

就労や年金による収入がある人については、エアコンや暖房設備の購入にあたって生活福祉資金貸付制度が活用できる。貸付金を利用しても収入として認定されず、その返還分が収入から控除されることにより、生活保護費からやりくりをする

といった実施的な負担はない。一方で、生活保護費だけで生活する人にはこの制度が活用できないという制度的な不備が指摘されている。また、エアコン等の本体価格に加え設置費用も見込まなくてはいけないし、発生する電気料金は支給される保護費から支払うことに留意する必要がある。

生活保護には臨時的に支払われる生活費として、被服費、家具什器費、移送費、入学準備金などがあるが、配偶者や三親等以内の血族、もしくは二親等以内の姻族の葬儀に参加する場合も必要最小限度の交通費、宿泊料、飲食物費が「移送費」として支給され、この移送費は、転居や入退院の際などにも適用されることから、必要に応じて社会福祉事務所に相談することが望ましい。

4. 考察

4-1 被保護単身男性と学生を対象にしたアンケートから

被保護単身男性のアンケート結果をみると、お金のやりくりで困った場合、支援者や役所に相談している。家族への相談が難しくても、社会とつながっている今回の調査対象者は問題が生じても比較的対応が早く、その結果、深刻な事態を招かずに済んでいる。八百屋を活用していた事例からも、子細な費目から構成される家計簿記帳をせずとも、当事者に適したお金の管理の工夫が可能である。学生アンケートの結果から、男性は家計簿の記帳を女性に比べて熱心でない傾向があり、被保護単身男性向けのアンケートでも封筒管理といった代替案を回答した人がいたことから、記帳以外の家計管理支援の充実が被保護単身男性に求められている。

家計経済研究所（2012）においても「あまり費目立てのない簡易なものでも記帳をしてみると、家計管理の基本事項ともいえる収入を意識した支出や予算立てを意識化し、実行することができ、家計簿記帳は実態の把握だけではなく、家計管理態度獲得にも効果がある」と指摘している。そして「一定期間家計記帳を行った後に実態の問題把握だけでなく、その改善方法として予算立てを行うことや貯蓄目的の確認を誘導し、家計管理を通して現在の生活と将来の生活を結ぶ機会が重

要」とある。記帳を続けて自身の生活スタイルを確認し、それを踏まえて予算立てし、貯蓄目的を確認することで、将来を考えるきっかけにする。またそれが今の生活を意識して過ごす機会となる。問題があるから、あるいは状況を把握できるからという理由だけで家計簿の記帳を支援するのではなく将来を志向した取り組みが重要なのだろう。

4-2 支援者のヒアリングから

生活保護を受け、アパートなど住居環境が確保できた後、当事者の生活の質を高めるために欠かせないのが家計管理であり、その継続的な支援が求められている。家計管理支援の機会は、今回紹介した支援団体であるO会が開催する食事会、あるいは定期的な相談会とセットする形が支援に結びつきやすいだろう。わざわざ出向くよりは「ついでに家計の話も」といった仕組みづくりが支援の継続性を強化するものと期待できる。日常的に受ける相談領域である就労や住居、医療・介護、障害と関わらせながらの家計管理支援が現実的である。そして見通しをもって家計管理をするためには、その期間となる「単位」を徐々に伸ばしていくことが効果的である。毎日いくら使う、といったところから1週間、1週間でも平日と週末を分けて考え、そして1ヶ月間単位で管理ができるまで寄り添う「伴走者」の存在が、金銭管理の支援には欠かせない。

4-3 おわりに

本稿では、生活保護を受給している単身世帯は、政府統計でも「交通・通信」「教養・娯楽」等の支出が一般単身世帯に比べて少なく、限定的な社会生活を送っている実態を指摘した。家計の規模も生活扶助と住宅扶助等の範囲と限られており、一般の世帯に比べて家計簿記帳による節約や、貯金による金銭的な目標達成の幅はあまり大きくないかもしれないが、主体性を持ち、管理できているという自信、成功体験の積み重ねが「生活の質の向上」につながるのではないだろうか。そのためには、家計簿記帳を契機とした生活支援のタイミングが定期的にあることが望まれる⁵⁾。

さらに、法的に借金を整理する際にも共通することであるのだが、自分や家族、他者への説明資料として家計簿が位置づけられる側面が、生活保護受給世帯には一般世帯以上にあると考えられる。家計簿の記帳が、消費生活に関わる具体的に積極的な説明材料になりうるのである。

厚生労働省社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会の報告書」6)では、生活困窮者の生活力を高めるために家計相談の支援が検討され、「新たな相談支援事業と関係機関のネットワーク」のイメージ図(11ページ)の中にも、家計相談支援事業者が組み込まれている。「6. 家計再建に向けた支援の強化について」(27ページ)では、「地方自治体が地域の実情に応じて直接これを行うことができるようにするほか、地域の社会資源を踏まえ、社会福祉協議会や消費生活協同組合等の貸付機関等に委託できるようにすることが必要」とある。しかし、公的な制度である社会福祉協議会が実施する日常生活自立支援事業(旧地域権利擁護事業)の日常的金銭管理サービスについては利用料が割高で、敷居が高いと考える当事者もいる。生活保護受給者が利用する場合、実施主体である社会福祉協議会は費用の徴収をしないことから、事業として成立しがたいとも聞く。生活保護費に家計の管理費に関わる扶助が付加されるのも方法だが、支援者がどこまで、いつまで手伝うかを含めて、生活保護受給者への家計管理支援が継続的に事業として成立する仕組みが必要である。

今回は生活保護受給者に必要な家計管理支援について、とりわけ単身男性に着目して検討したが、今後の研究課題としては、生活福祉資金の利用者や児童扶養手当等を受給している母子家庭などとの関連で検討することで、より広範な当事者の生活の質と社会保障制度の実効性の向上に寄与できるものとする。

注

- 1) 厚生労働省『厚生労働白書』(平成23年度、平成24年度)、『被保護者調査』(平成24年6月分)
- 2) Quality of life (QOL): 日常生活や社会生活

- のあり方を自らの意思で決定し、生活の目標や生活様式を選択できることであり、本人が身体的、精神的、社会的、文化的に満足できる豊かな生活を指す（厚生労働省『障害者・児施設のサービス共通評価基準』）。
- 3) 小野由美子（2011）（2012）、多重債務者問題からみた社会福祉のあり方研究会（2010）
 - 4) ここでの「女」は例示に過ぎず、最低生活費の計算に性別の相違は関係ない。
 - 5) 社会保障審議会 生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会 報告書
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002tpzu.html>
 - 6) その試みとして新宿区福祉事務所が被保護者自立促進事業プロジェクトチームを設置し、NPO法人「新宿らいふさぼーとプラン」に委託し、実施された支援が紹介されている（布川日佐史編『生活保護自立支援プログラムの活用』山吹書店、2006年）。その社会生活バックアップ講座の1つである「お金の勉強会」は、多重債務者問題からみた社会福祉のあり方研究会のメンバーでもあるライフマネー研究会の島貫正人氏と鈴木佳江氏が担当し、その成果は『やりくりべたのための家計管理術レッスン』（ライフマネー研究会、2007年）、『やりくりべたでも大丈夫！封筒7枚！かんたん家計管理術』（PHP研究所、2009年）として刊行されている。
 - 2) 厚生労働省『被保護者調査』平成24年12月分。
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hihogosya/m2012/12.html>
 - 3) 小野由美子・名川勝・鈴木佳江「知的障害者を対象にした消費者教育—特別支援学校等における家計管理技術の向上を目的とした支援プログラム—」『消費者教育』第31冊、75-85頁、2011年。
 - 4) 小野由美子「『要支援消費者』への消費者教育の現状と課題」『消費者教育』第32冊、21-30頁、2012年。
 - 5) 多重債務者問題からみた社会福祉のあり方研究会『上手に使う豊かなくらし—知的障害者の金銭管理支援のために—』2010年。
<http://www.hi-ho.ne.jp/qol-up/>
 - 6) 厚生労働省『被保護者全国一斉調査』平成22年度。
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=000001049764&requestSender=search
 - 7) 厚生労働省『社会保障生計調査』平成22年度。
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001024539>
 - 8) 色川卓男「家計簿からみた女子大学生の経済生活と家計簿記帳の金融・経済教育上の意義について」『クォーターリー生活福祉研究』通巻67号, Vol.17, No.3, 17-29頁、2008年。
 - 9) 家計経済研究所『ひとり暮らしの若者と家計簿—インターネット調査による若年単身家計と家計管理—』2012年。

文献

- 1) 厚生労働省『厚生労働白書』平成23年度、平成24年度。

(受付 2013.3.27 受理 2013.6.3)